



# 農工通信



第 67 号



改修進む工学部4号館。広く明るい交流スペースの設置などアメニティーの向上と、耐震補強のため、改築が進められています。明年3月には全館の改装が完成する予定です。

## も く じ

○あいさつ	○東京農工大学創立50周年記念事業
学長に就任して ..... 2	募金終了報告 ..... 11
副学長に就任して ..... 3	○新たに迎えた正会員 ..... 12
副学長に就任して ..... 4	○同窓生だより ..... 19
工学部長に就任して ..... 5	○部会・支部だより ..... 20
大学院生物システム応用科学	○クラス会だより ..... 23
研究科長に就任して ..... 5	○掲示板 ..... 26
○学園だより	○慶弔 ..... 28
平成12年度東京農工大学	○今春本学を退官された教官 ..... 28
卒業修了式祝辞 ..... 6	○事務局だより ..... 28
入学式祝辞 ..... 7	○編集後記 ..... 28
○第38回通常総会開催さる ..... 8	

## あ い さ つ

## 学長に就任して

学長 宮田 清 藏



去る5月1日より第17代東京農工大学長に就任致しました。省みますと1969年に大学院博士課程を修了し本学に専任講師として着任以来32年目になります。この間約130名の卒業生を貴会に送っています。来年からは私の研究室の出身者が入会し

なくなるのは少々寂しい気がしますが、逆に大学院生も含めて1500名以上の学生入会に資するという意味で、より大きな責任を感じています。

まず本学の現状を述べ将来の展望をしたいと思えます。

大学の役割はご承知のように、教育・研究・社会貢献であります。教育に関しては、従来大学科制だった組織をより専門的な小さな学科に変え、少人数できめ細かく教えるようにしております。特に語学教育ではその方針を明確にしています。また Faculty Development (FD) にも力を入れており、大学教官の学生に対する教授法の改善を行っています。例えば講義の巧みな教官が全教官の前でデモンストレーションを行なって啓発しています。更に講義科目及び内容を第3者機関(JABEE)に評価をお願いし、国際スタンダード以上の知識や技術を身につけた人材を輩出できるよう努力しています。

研究も極めて活発であり、国際的な学術雑誌を通じて多大な情報発信を行っています。最近河合塾が数千人の大学人のアンケートにより学問のレベルについて分野別大学ランキングを発表し、朝日新聞などのマスコミにも取り挙げられました。高分子、バイオ、機械等の分野で1~10位以内に入っています。

このような活発な研究活動を反映して、基礎研究に支援される科学研究費補助金額は1人当たり全国で11位であります。この他にも未来開拓、ブリベンチャー、新生地域コンソーシアムなどの応用的研究資金を他省庁からも受けています。大学

の社会貢献には種々ありますが、最近雇用創成等の社会的要請があり、産学共同研究が注目されています。本学ではこの面でも非常に活発でその数は全国7~8位を保っています。教官一人当たりで換算しますと2位を大きく引き離れた1位であります。以上述べましたように本学は教育・研究・社会貢献とどの方面についても日本有数のポテンシャルを有しております。このような現在のポテンシャルを制度的にも強化することを目標として大学院重点化を今年度の最重点課題として文部科学省に臨んでいます。その内容は先行している旧帝大などとは全く異なっています。農工両学部の学科を融合した新大学院研究部に全教官が所属し、学部生が所属する教育部に Outreach して教えるシステムです。これにより農工両学部の教官の触れ合いが多くなり共同研究が誘起され新しい融合領域が形成されます。このような試みは本学発足以来初めてのもので、文部科学省でも極めて革新的なものであると理解しているようです。この企画(我々は部局化と言っています)が成功すれば21世紀に克服しなければならない、循環型社会構築に必要な不可欠な人材育成になると信じています。

また本学の知的資源を企業に移転して社会に役立たせることを目的とした組織「農工大 TLO」を立ち上げつつあります。この TLO は株式会社です。同窓会員の方々にご協力をお願いしたところ、多くの会員の賛同を受け、既に5千5百万円もの資本金が集まっています。7月の締切までには更に伸びることが予想されます。したがって全国屈指の資本金を有する TLO が間もなく発足します。

一方、これからの国立大学は激震に見舞われようとしています。現在、文部科学省は平成15年4月1日より全ての国立大学を独立行政法人化することを検討しています。独立行政法人の姿はまだ完全には明らかになっていませんが、授業料の設定や各種の収益事業などを大学の責任で行なうことができるようになります。しかし一方では政府からの交付金は漸減される可能性があります。特

に5年ごとの大学評価機構の評価によって交付金は大きく変化します。大学も社会を構成している一員ですからそれなりに評価を受けることは当然ですが、あまりにも短期的なものであるとしたら人材育成に致命的になります。私は評価とは何か、どのようにしたら公正、公平に大学を評価できるのかについて研究をしていこうと思っています。

今までの国立大学は国から与えられた交付金を法律に従って使用だけしていれば良かったのですから、それに慣れた教職員にとっては発想の大転換が必要です。したがって学長には教学だけでなく経営のセンスも重要になります。私にはそのセンスが備わっているとは思いませんが、同窓会の諸氏のお力もお借りしてこの難局に立ち向か

っていこうと思います。

特に同窓会長の西尾邑次様には東京農工大学運営諮問会議の議長として今後の大学運営に関するアドバイスを頂こうと考えております。本学は素晴らしい学生諸君、教育・研究熱心な教員スタッフとそれを支える事務職員、交通至便な場所に美しいキャンパスと極めて恵まれた環境にあります。しかしこの環境に甘えずに法人化に際して、企業や他省庁などとも連携をはかることにより大学をより活性化させ、18才の子供達がいままで以上にあこがれを持って本学を目指すように努力したいと思います。

どうぞよろしくご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

## あ い さ つ

### 副学長に就任して

#### 副学長 有馬 泰 紘



1874年以來の前史を経て1949年に設置された本学は、歴代教職員学生の一体となった努力により有為な働き手多数を社会に輩出し、そのことによって日本社会に不可欠な有力大学の一つに成長し存立していると承知しております。激しく変転す

る世界の中で、このような伝統をさらに発展させ、以て社会に貢献することが、今の東京農工大学を担う私たちの責任であると認識しております。

20世紀後半の爆発的な経済規模拡大を経た今、人類社会と地球生態系の持続性に様々な面で危険信号が灯されていることは多くの人々が認めつつ

あります。従来型の経済社会システムとそれを支える技術、論理、価値観、文明論等々、全てについて根底的な洗い直しが必要となっていますが、このような危機の時代を乗り越え新たな豊かさを実現するためには、知の開発と伝授（研究と高等教育）が決定的に重要であることも世界共通の認識となっています。大学法人化が具体像を結んで迫りつつある状況とも相俟って、時代の要請の深層底流を捉えた新たな東京農工大学像の探求とその具現が焦眉の課題となっております。本学発足以来ともいえる大転換期にあって、学長を補佐し、自由闊達な学風を育ててきた本学の伝統を誇りとし、新たな飛躍のために微力を尽くしたいと考えております。同窓生各位の熱いご支援を切にお願い申し上げます。

## あ い さ つ

## 副学長に就任して

副学長 松岡正邦



このたび、教務・国際交流等担当の副学長に任命されました。担当する職務の内容は前任の福嶋先生のご挨拶にありますように教育並びに学生に関わるものです。

この2年間ほどは本学の教養教育や教育改革に関わって参りました。大学が社会に果たすべき役割と責任について大学以外の場で盛んに論じられ、その結果として大学を取り巻く環境は大きく変化しています。既に大学評価・学位授与機構による国立大学評価の調査が始まり、本学においては外部の有識者による運営諮問会議が設置されました。これまでの学内組織とは異なる体制で、大学の適正な運営を行おうとしています。ほぼ2年後には本学も独立行政法人への移行が行われようとしています。大学は教育

と研究を両輪として来ましたが、現在ではこれに社会との関わりが加わりました。開かれた大学を目指して各大学が熾烈な競争に入っています。この様な改革の時期に本学の舵取りを間違いなく行うことの重大さに責任を感じています。この改革は学生にとっても少なからぬ影響があるものと思われれます。教育の原点に立ち返って真摯な議論をし、それを即座に実践する勇気と決断が求められています。

これまでの本学の質と量の両面における発展は一卒業生にとって嬉しい限りです。将来に向かってより発展するために、微力ながらも今すべきことをする、これが今の心境です。日本のみならず全世界から有能な学生を集めて教育し、また共に研究し、その成果を世界に還元することを夢見ています。このためには教職員および同窓生の方々の積極的なご支援が不可欠です。何卒よろしくお願い申し上げます。



第38回同窓会総会スナップ（西尾同窓会会長挨拶，宮田学長挨拶）

## 工学部長に就任して

工学部長 松 永 是



本年の4月より工学部長に就任し、その責任の重さを感じつつ緊張する毎日を送っております。東京農工大学も毎年発展を続け、今では府中、小金井キャンパス併せて約6000人の学生が勉学に励んでおります。小金井キャンパスには、工学部と生物システム応用科学研究科の2部局があり、工学部には約3600人の学生がおります。しかも、そのうちの約800人は大学院生です。これらの学生が毎年卒業して同窓会に加わっていくので、同窓会組織も急速に拡大していることと思えます。

本学の同窓生は伝統的に大変愛校心が強いという印象を持っております。私の専門分野はバイオテクノロジーで、工学部の生命工学科というところに属しているのですが、その関連学会、企業、

各省庁等で本学の卒業生にお目にかかる、皆さん母校を誇りにしておりその発展を期待しているのが感じられます。3月に全学の産学連携推進委員会でTLOの社長を公募しました。全部で約50人の応募があり、その中半数以上は本校の卒業生でした。その何人かには、委員会のメンバーとして面接させていただきましたが、東京農工大学のTLOを是非成功させようという熱意には大変感動しました。さらに4月に入りTLOへの出資を本学の教職員、同窓生にお願いしたのですが、申し込み開始3日間ですでに20人近い同窓生からの出資申し込みがあり関心の高さと母校への期待に、関係者一同大変勇気づけられました。

東京農工大学は今後、総合科学技術大学院基礎大学を目指しております。工学部はこの一端をになう大学院の部局となるべく努力をしております。すばらしい同窓生に支えられた本学をさらに発展させるために、全力を挙げて工学部長の任に当たりたいと思います。皆様、よろしくご支援ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

## 大学院生物システム応用科学研究科長に就任して

大学院生物システム応用科学研究科長 小 畑 秀 文



本年4月に大学院生物システム応用科学研究科長に就任致しました。及ばずながら、研究科の発展のために、また本学の発展に寄与できるよう全力を尽くしたいと思っております。本学卒業生の皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

ほぼ一年前に副学長に指名され、本欄を通して皆様にご挨拶申し上げたばかりであり、このような展開をまったく予想もしておりませんでした。激動期にある大学の中に身を置けばこそ、研究科長という立場の重大さが実感され、身の引き締まる思いです。

大学院生物システム応用科学研究科は平成7年

に農工両学部の協調の結果として設立されました。まる6年が経過したところです。農学と工学の融合を一つの理念に掲げ、新しい学問分野を切り開くことを狙いとしたものであり、このような農工融合を標榜した研究科は全国的にも例がありません。それだけ社会からの注目度も高いものがあります。しかしその道は決して平坦ではありません。短期間でその理念を形に見えるようにできるとは思いませんが、その成果を問われる時期がそう遠くない将来やってまいります。これから真価を問われるわけであり、当研究科教職員一同はより良い研究科を目指して努力しておりますが、卒業生の励まし、あるいは忌憚のないご意見は我々にとっては大きな力となるものです。これまで以上のご支援をお願いする次第です。

終わりに、卒業生皆様の一層のご活躍を祈念してご挨拶と致します。

## 学 園 だ よ り

## 平成12年度東京農工大学卒業修了式祝辞

同窓会長 西 尾 邑 次 (農S17)

卒業・修了される皆様おめでとございます。そして我が東京農工大学同窓会員として心からお迎えいたします。

皆様は誇り得る歴史と輝かしい伝統を有する本校に入学されてから今日まで常に目的意識を持って学問の研究、科学の探求そして人格の陶冶に日夜努力を重ねられ、こゝに念頭の卒業・修了証書或は学位記を手にしたのであります。

皆様の胸中はよろこびに満ちあふれていると存じます。

先生方も学生にどのように教えるか知恵を出し創意工夫をこらし懸命に努力を傾注<sup>かたむけ</sup>てこられたこと、存じます。

教え子達の今日の喜びの様を御覧になりさぞ満足感がこみあげていると存じます。

御苦労様でした。

ご父兄の皆様におかれましても大学に入ってくれたけれど勉強しているだろうか体をこわさなければいゝが、うまく卒業してくれ、ばいゝが等々何かと御心配が多かったと存じます。

今やれやれと或はよく頑張ってくれたと安堵なさっていると存じます。

おめでとございました。

さて証書を受けられた皆様は小学校に入学されてから今日迄の長い道のりは常に学業と云うことであります。

今日はその学業を終えると云う意義のある節目のときであると云うことを認識しなければなりま

せん。大学時代は何ものにも掣肘を受けない自由な気分はあったとしても、今日迄支えて下さったご父兄に感謝しなければなりませんし、刻苦・勉勵・忍耐・努力を積み重ねて得た卒業・修了証書、学位の取得と云う資格は次の人生への出発であり、それを生かして行かなければなりません。

イギリスの生物学者でありダーウィンの進化論普及者として知られているトーマス・ヘンリー・ハックスリは「人生の大目的は知識ではなく行動である」と云う名言を残しております

これは、正しい知識を得ることは社会の進化の為大切なことではあるがそれを基礎として人類の生活向上の為に役立てるよう行動することが大きな目的でなければならぬと云うことであります。

又皆様はこれから科学技術者としての道を歩まれる方が多いと存じますが、科学技術者に求められる社会責任或は倫理性と云うことを充分意識しながら精進していただきたいと存じます。地球を破壊し人類を滅亡に導くような科学技術はいらないのであります。

皆様は21世紀の最初の卒業生であります。20世紀の社会状況の大きな変革、文化・科学の偉大な進展、を経験しております。

今我が国の政治・経済・社会状況は憂慮すべき事態にあるように思われます。

人類が豊かな幸福を感じ安心して生活できる社会になるかどうかは良識とファイトのある若い皆様の双肩にかかっていると存じます。

明治維新に活躍し偉業を成し遂げた幕末の志士達、大久保利道・伊藤博文・木戸孝允・坂本竜馬・大隈重信等々の当時の年齢は各れも30才前後であったのです。

皆様の将来に大きな夢を託し皆様の今後の御健勝をお祈りいたし、お祝の言葉といたします。



## 平成13年度東京農工大学入学式祝辞

同窓会副長 勝野盛夫

皆さん、入学おめでとうございます。ご両親もさぞお喜びと思います。本日はこの東京農工大学に大勢の皆様方を迎え、東京農工大学同窓会を代表して祝辞を述べますことを、光栄に存じます。今日こうして晴れて入学の栄冠を得られたのも、血の滲むような努力のたまものであり、心からお祝い申し上げます。

私は昭和28年繊維学部、今の工学部ですが、大学第1回の卒業というずいぶん古い卒業生です。大学になる前の高等専門学校創立から数えますと、100年を迎える伝統ある大学でありまして、学校の伝統というものは長い年月と多くの先輩や諸先生の苦心の結晶として築かれたものであります。昨年でしたか、或る雑誌に日本全国の大学数百校のランクが記載されていました。東京農工大学が15、6番目だったと思います。社会からは大変高い評価を受けている大学であります。皆様はどうか誇りを持って学生生活を送って下さい。

さて、21世紀を迎え皆様の時代となつてまいりました。パラダイムの変革期といわれる複雑な時代となり、皆様にゆだねる課題は山積しています。今、世界的な大きな問題は三つございます。一つは人口増加、二つ目に環境問題、三つ目に飢餓の問題であります。これらはすべて関連しあった問題であります。

今、世界の人口は60数億だそうです。1986年7月7日に50億突破ということになっており、いまの予想では100億突破するのは2020年と考えられています。こうなりますと当然食糧問題が生じます。1日1500カロリー以下の栄養しかとれない人は栄養不足と言われており、いまこのような状況のひとは世界で5億人といわれ、いまでも急速に増加しています。そのために焼畑、森林伐採、過剰放牧などで地球の砂漠化、1年間で500万ヘクタール、ピンときませんが1分間に後楽園球場の10倍が砂漠化されているわけです。20世紀における科学の進歩は目覚ましいものがあり、このような科学の力が無かったらとても60億という人口をこの地球上に抱えることは出来ません。反面、酸性雨、

炭酸ガスによる温暖化、河川・海洋汚染、また核問題等21世紀はこれらの見直しの時代であり、あたらしい科学の時代といわれています。生物工学という新しい手法、すなわち遺伝子の組み換え、細胞の融合、あるいはコンピュータ、IT、あるいはロボットシステム、皆さんのような若いこれからの人に期待するところでもあります。これから4年間、講義に実験に個性を磨いていかれると思いますが、ただ教わるだけでなく、あたりまえと思う事柄でも、「なぜ、どうして」と疑ってみることから、新しい着想の種子が見つかることがあります。私共研究所の技術者、研究者にも常にこの事を申しております。

ニュートンの万有引力の話は有名ですが、彼はリンゴの木の下で本を読んでいたとき、リンゴが落ちたのを見て、なぜ垂直にいつも地球の中心に向かって落ちるのか、この重力に関する思想が頭に浮かんだのが、1665年22歳の時です。田舎で育った私などは柿でも栗でも落ちるのを随分見ましたが、引力など全く考えもしませんでした。ニュートンと我々の創造力の違いであります。素朴な驚き、疑問、冒険心は若い人の特権です。自然を対象とする科学について皆さんに期待する次第であります。大学の4年間は私のようなルートになると、極めて短い期間であったように思います。どうか目的意識をもって生き生きとした学園生活をおくって下さい。入学おめでとうございます。



## 東京農工大学同窓会第38回通常総会開催さる

日 時：平成13年 5月26日(土) 13:30~16:00

場 所：東京農工大学農学部連合農学研究科棟会議室

出席者：理事および代議員計184名（うち委任状81）

第38回通常総会は、5月26日、緑深まる母校府中キャンパスに同窓生多数が参集し盛大に開催された。

まず、同窓会高橋庶務部長から、出席者が定足数を超え、会議が成立している旨報告があり、坂野理事長の開会の辞によって開始された。

総会に先立ち、西尾会長からは、「今日、同窓会を取り巻く経済的環境はさらに厳しさを増してきており、また、大学も新しい課題を抱えており、重要な変革期にさしかかっていると、私ども同窓会の活動は例年になく重要度を増してきている。同窓会活動の中核は支部活動でもあり、支部活動の活発化充実化を促して行きたい。大学においては、科学探求への刺激が与えられる場を拡大し、母校が世界に羽ばたく立派な大学として発展するよう願うものであり、同窓会としても重要な支援をして行きたい」との基調挨拶がなされた。

つづいて、来賓の本学宮田学長が、就任の挨拶を兼ね、東京農工大学の現状と将来について、①教育（少人数教育）、②研究（融合領域化）、③社会貢献（TLO）の三つの視点から展望され（カッコ内は項目例）、これらを推進して行くためにも、同窓会、あるいは同窓生各位との連携をさらに密なるものにして行きたいとの挨拶があった。

次に、有馬副学長から、総務・大学改革等担当副学長として就任の挨拶があり、従来型の社会システムを支えてきた技術、論理等の洗い直しの必要性、大学法人化の課題や在学生数（農学系2千人、工学系4千人、計6千人）の規模の大型化への対応等、新規の課題を擁しており、新たな飛躍のために力を尽くしたいとの抱負が述べられた。

また、松岡副学長からは、教務・国際交流等担当副学長として、今日、教育改革の重要な時期に当たり、教育の原点に立ち返り、本学の舵取りを間違ひなく行なうよう努力する所存であるとの表明をされた。

さらに、松永工学部長からは、工学部長就任の挨拶がなされ、工学部の将来像について、農工大 TLO の現状を含め抱負について述べられた。

引き続き、会則に則り、西尾会長が議長となり、議事録署名人名2名（濱野國勝、亀山秀雄、両理事）を選任、議事にはいった。

本年度は、本会会長・副会長の改選期にあたることから、本会議において選任される予定であることが付言された。

### 議事

#### 1. 平成12年度事業実績報告、決算報告及び監査報告

高橋庶務部長より、平成12年度の10項目にわたる各事業報告、および濱野経理部長から平成12年度決算報告【別記1】が行われ、さらに、佐々木監事から、同

年度の報告書・帳簿・伝票等の精査を行い、会計監査および業務監査を実施した結果、何れも適正に処理されている旨報告があり、12年度決算、監査両報告とも異議なく了承された。

#### 2. 平成13年度事業計画および予算案提案

高橋庶務部長より、平成13年度事業計画案【別記2】の10項目にわたり提案、説明が行なわれ、いずれも異議なく了承、可決された。また、濱野経理部長から、平成13年度事業予算案【別記3】について提案・説明が行なわれ、提案どおり承認可決された。

なお、昨年度からの主な継続課題を含め質疑、論議が行われた。これらの論議の状況については議事4その他4.2項に概要を記載する。

ここで本会議は休憩し、理事会を開催。坂野理事長から、①次期会長として西尾邑次氏（現同窓会会長再任）、副会長として【別記4】の16名をそれぞれ推挙すること、②梶井功氏（前東京農工大学学長）を名誉顧問に、久保田富一郎氏（前同窓会会長）を顧問にそれぞれ推薦、③東京農工大学職員（局長他19名）に対し、会則第4条第2項にもとづき特別会員を委嘱する件について提案了承された。

#### 3. 次期会長、副会長の選任

本会議が再開され、①会則第10条第3項に基づき、別掲の会長（再任）、副会長（16名）が選任された。また、②会則第5条に基づき名誉顧問に梶井功氏（前東京農工大学学長）、顧問に久保田富一郎氏（前同窓会会長）が推挙された。さらに③会則第4条第2項にもとづき東京農工大学職員（局長他19名）に対し特別会員を委嘱する件が提案され承認された。

#### 4. その他

上記議事1、2および3に関連した主な論議事項について概括すれば次のとおりである。

##### 4.1 新会長挨拶

引き続き、会長をお引き受けすることになった。難しい経済環境のもと、また、新しい大学体制下での同窓会としての役割を改めて認識し、また、同窓会活動の活発化を目指して力を尽くしたい。

##### 4.2 主な論議事項

###### (1)東京支部設立

「東京支部」については、支部会則が制定され、必要な組織体制が整い、平成13年度より発足することになった。裾野の拡大の活動は引き続き行われる。（高橋庶務部長から経過の概要等について説明。代議員2名、還元金は当分の間不要）。

###### (2)同窓会ホームページについて

同窓会ホームページの開設が遅れており、ご期待に添い得なかったが、5月28日に開設の運びとなった。

（助後援会ホームページを含め、逐次内容の充実を図って行くつもりである（原田代議員の質問に対し亀山企画部長より経過について説明）。

### (3) 八王子分収林管理 (7.2ha)

平成17年3月31日に契約解除期日を迎えることから昨年度総会以来の継続案件であるが、契約解除の方向で、適切な終結策案について市当局と協議を続ける。昨年度完了しなかった毎木調査を本年6月頃までに行ない、分収林立木評価を実施する（生原副部長回答）。

### (4) 平成13年度版会員名簿について

平成13年度11月発行の予定で推進中である。今回は、製作コストの低減のため、会員自営業者、会員在籍会社、一般会社に対し広告掲載を依頼している（額縁事業部長より説明）。

### (5) 東京農工大学創立50周年記念事業後援募金会（以下募金会と略称）による募金について

高橋庶務部長より、同窓会としての報告が行われ、引き続き、募金会として、募金会伏谷常務理事より経過および結果について下記のとおり報告が行われた。募金活動 平成12年11月30日をもって終結。

募金総額	46,479,057円	(総計約2,600件)
支払済経費分	2,799,349円	(50周年史刊行事業他)
差引高	43,679,708円	
支出計画(a)	40,000,000円	記念会館建設費(1)
(b)	2,100,000円	記念会館設計費
(c)	800,000円	国際交流援助費
合計(a+b+c)	42,900,000円	
	600,000円	募金礼状、報告書
	179,708円	予備費
総合計	43,679,708円	

この記念会館計画は、当初の計画では2ヵ所に建設の計画であった。しかし、募金額の状況から2ヵ所は不可能であり、1ヵ所に絞らざるを得なくなった。また、関係当局の見解から判断しても、同窓会館としての使用は難しく、独立行政法人化等の将来計画のなかで、改めて検討するのが適当であると判断するに至った。

募金会としては、記念会館建設費ほかとして上記合計額42,900,000円を奨学寄附金として大学に寄附することとした旨、募金会の結論を報告し、寄附された方々に対し終了報告書および礼状を出状する予定であるとの報告が行われた。

つづいて、高橋庶務部長から、同窓会としての見解を要約した説明が行われ、募金会からの報告のような事情からして、同窓会から予定していた30百万円の拠出は、記念会館での同窓会の使用が明らかになるまで保留とせざるを得ない旨報告し了承を得た。

(6) その他 以上

## 〔別記1〕平成12年度決算

(平成12年4月1日～13年3月31日)

### 1. 基本金決算

(1) 収入 (単位：円)

款 項 目	(A) 予算額	(B) 決算額	(A)-(B) 増 減	備 考
前年度繰越金	330,456,020	330,456,020	0	

終身会費	2,700,000	2,515,000	185,000	85名(分納を含む)
賛助会費	16,000,000	10,050,000	5,950,000	335名
合 計	349,156,020	343,021,020	6,135,000	

### (2) 支出

特別会計繰出	7,000,000	7,000,000	0	会員名簿発行
一般会計繰出	9,370,000	8,756,500	613,500	*終身+賛助会費10%、基本金特別繰出7,500千円
合 計	16,370,000	15,756,500	613,500	

### (3) 残高

収入-支出	332,786,020	327,264,520	5,521,500	
-------	-------------	-------------	-----------	--

## 2. 一般会計決算

(1) 収入 (単位：円)

款 項 目	(A) 予算額	(B) 決算額	(A)-(B) 増 減	備 考
前年度繰越金	3,117,413	*3,117,413	0	*募金仮勘精算後
入 会 金	4,310,000	3,330,000	980,000	666名
年 会 費	2,460,000	2,692,000	-232,000	延1,794名
10年前納会費	1,140,000	1,110,000	30,000	74名
利 子	4,600,000	4,585,655	14,345	
基本金より繰入	9,370,000	8,756,500	613,500	
そ の 他	40,000	37,304	2,696	
合 計	25,037,413	23,628,872	1,408,541	

### (2) 支出

款 項 目	(A) 予算額	(B) 決算額	(A)-(B) 増 減	備 考
事 業 費	11,650,000	11,026,429	623,571	
内 員 名 簿 発 行 準 備 費	1,500,000	1,223,146	276,854	
名 簿 作 成 費	0	0	0	
会 報 発 行 費	7,500,000	7,588,363	-88,363	7月, 12月
新入正会員歓迎費	900,000	900,000	0	卒業, 修了証書入
母 校 行 事 援 助 費	400,000	400,000	0	学園祭, スポーツ大会
分 収 林 管 理 費	350,000	116,400	233,600	森林保険
資 料 整 備 費	50,000	0	50,000	
活 動 費	950,000	798,520	151,480	
会 議 費	550,000	540,495	9,505	通常総会, 懇親会
事 務 費	9,360,000	8,917,396	442,604	
手 当	2,200,000	2,160,000	40,000	
雑 給	2,100,000	2,267,003	-167,003	
内 備 品 費	480,000	306,432	173,568	次期へ
消 耗 品 費	660,000	864,252	-204,252	
通 信 費	800,000	542,299	257,701	合格者, 父母連絡
旅 費	2,100,000	2,043,920	56,080	総会代議員, 支部総会
事 務 用 品 印 刷 費	250,000	54,200	195,800	
祝 弔 費	100,000	111,284	-11,284	
借 室 ・ 光 熱 水 費	470,000	434,522	35,478	同窓会室
雑 費	200,000	133,484	66,516	
支 部 ・ 部 会 還 元 金	1,300,000	1,092,630	207,370	
職 員 厚 生 積 立 金	100,000	100,000	0	
そ の 他	50,000	30,000	20,000	
予 備 費	2,027,413	0	2,027,413	
支 出 合 計	25,037,413	21,706,950	3,330,463	
次 期 繰 越 金		1,921,922		収入-支出

## 3. 特別会計決算

## (1) 収入 (単位:円)

款 項 目	会員名簿発行資金	職員厚生資金	備 考
繰越金	10,011,892	1,224,186	
繰入金	7,000,000	100,000	
利息	15,753	1,213	利息計16,966
合 計	17,027,645	1,325,399	

## (2) 支出

款 項 目	会員名簿発行資金	職員厚生資金	備 考
支出合計	0	0	

## (3) 特別会計残高

款 項 目	会員名簿発行資金	職員厚生資金	備 考
収入-支出	17,027,645	1,325,399	

特別会計残高合計 18,353,044円

## 4. 財産目録

流動資産	347,539,486円
(ア) 基本金(相当)	327,264,520円
(イ) 一般会計	1,921,922円
(ウ) 特別会計	18,353,044円

## 〔別記2〕平成13年度事業計画

- 第38回通常総会・理事会開催(平成13年5月26日、於農学部)
- 農工通信67号(7月)、68号(12月)を発行、全会員に配布
- 平成13年度版会員名簿の発行(今回は広告掲載を含む、10月末日発行目標)
- 会員動静整理作業の継続実施
- 部会・支部組織強化、援助の継続実施(部会・支部総会等への出席、部会・支部名簿送付、ホームページ開設充実、同窓会・後援会紹介カタログ作成等)
- 東京農工大学創立50周年記念事業後援募金への協力に関する報告および今後の同計画実施
- 八王子分収林管理の継続実施(実態調査継続)
- 財団法人東京農工大学後援会への協力
- 母校行事への援助、新入正会員歓迎行事援助の継続実施
- 会員の慶弔に、祝電又は弔電を打電

## 〔別記3〕平成13年度予算

(平成13年4月1日～平成14年3月31日)

## 1. 基本金予算

## (1) 収入 (単位:円)

款 項 目	(A) 13年度	(B) 12年度	(A)-(B) 増 減	備 考
前年度繰越金	327,264,520	330,456,020	-3,191,500	
終身会費	2,515,000	2,700,000	-185,000	延80名(分納を含む)
賛助会費	9,045,000	16,000,000	-6,955,000	延302名
合 計	338,824,520	349,156,020	-10,331,500	

## (2) 支出

特別会計繰出	7,000,000	7,000,000	0	会員名簿発行
一般会計繰出	8,656,000	9,370,000	-714,000	終身・賛助会費の10%
特別繰入分	3,500,000		3,500,000	
合 計	19,156,000	16,370,000	2,786,000	

## (3) 残高

収入-支出	319,668,520	332,786,020	-13,117,500	
-------	-------------	-------------	-------------	--

## 2. 一般会計予算

## (1) 収入 (単位:円)

款 項 目	(A) 13年度	(B) 12年度	(A)-(B) 増 減	備 考
前年度繰越金	1,921,922	3,117,413	-1,195,491	
入会金	2,997,000	4,310,000	-1,313,000	前年実績比90%
年会費	2,692,000	2,460,000	232,000	前年実績同額
10年前納会費	1,110,000	1,140,000	-30,000	前年実績同額
利子	2,125,000	4,600,000	-2,475,000	
基本金より繰入	12,130,000	9,370,000	2,760,000	
その他	1,830,000	40,000	1,790,000	
合 計	24,805,922	25,037,413	-231,491	

## (2) 支出 (単位:円)

款 項 目	(A) 13年度	(B) 12年度	(A)-(B) 増 減	備 考
事業費	11,948,000	11,650,000	298,000	
内				
会員名簿発行準備費	0	1,500,000	-1,500,000	
名簿作成費	1,345,000	0	1,345,000	
会報発行費	7,590,000	7,500,000	90,000	7月、12月
新入正会員歓迎費	855,000	900,000	-45,000	卒業、修了証書入
母校行事援助費	380,000	400,000	-20,000	学園祭、スポーツ大会
分収林管理費	350,000	350,000	0	森林保険、毎木調査費
資料整備費	550,000	50,000	500,000	
活動費	878,000	950,000	-72,000	
会議費	550,000	550,000	0	通常総会、懇親会
事務費	9,881,000	9,360,000	521,000	
内				
手当	2,182,000	2,200,000	-18,000	
雑給	2,833,000	2,100,000	733,000	
備品費	450,000	480,000	-30,000	2基他
消耗品費	870,000	660,000	210,000	資料作成増
通信費	550,000	800,000	-250,000	合格者、父母連絡等
旅費	2,100,000	2,100,000	0	総会代議員、支部総会
事務用品印刷費	200,000	250,000	-50,000	
慶弔費	116,000	100,000	16,000	
借室・光熱水費	440,000	470,000	-30,000	同窓会室
雑費	140,000	200,000	-60,000	
支部・部会還元金	1,092,000	1,300,000	-208,000	
職員厚生積立金	100,000	100,000	0	
その他	180,000	50,000	130,000	
予備費	1,054,922	2,027,413	-972,491	
合 計	24,805,922	25,037,413	-231,491	

## 3. 特別会計予算

## (1) 収入 (単位:円)

款 項 目	会員名簿発行資金	職員厚生資金	備 考
繰越金	17,027,645	1,325,399	
繰入金	7,000,000	100,000	
利子	21,625	1,282	0.09%利息計22,907
合 計	24,049,270	1,426,681	合計25,475,951

## (2) 支出 (単位:円)

款 項 目	会員名簿発行資金	職員厚生資金	備 考
支出合計	24,049,270	0	合計24,049,270

## (3) 特別会計残高

款 項 目	会員名簿発行資金	職員厚生資金	備 考
収入-支出	0	1,426,681	合計1,426,681

特別会計残高合計 1,426,681円 (14年3月31日)

## 〔別記4〕会長及び副会長 (平成13年度, 14年度)

会 長	西尾 邑次 (農 17)			
副 会 長	畑中 孝晴 (農 31)	澤渡 弘幸 (林 33)	小川 益男 (獣 33)	渡辺 秀夫 (織化33)
	齋藤 誠 (蚕 32)	星野 義延 (環保53)	勝野 盛夫 (製糸28)	小谷野雄次 (機械38)
	安藤 哲 (植防47)	荒井 宏 (林 35)	高井 英雄 (織工31)	水野 隆司 (応物46)
	多田 全宏 (農化43)	繁澤 健夫 (農工24)	町山 紀郎 (工化39)	岩澤 京子 (数情58)

## 東京農工大学創立50周年記念事業募金終了報告

## 記念事業募金会理事長 東 野 文 男

東京農工大学創立50周年記念事業募金会は平成12年11月30日をもって2年間の募金活動を無事に終了することができました。本募金活動は大学の教育研究活動の恒常を目的としてご寄付を仰ぎましたところ、その趣旨にご賛同頂き、同窓生を中心に教職員や名誉教授など約2600名の方からご寄付を賜ることができました。ここに、ご援助を頂きました諸兄姉のご芳志に対して衷心より厚くお礼申し上げます。

記念事業としては、「東京農工大学創立50周年記念式典への援助」があり、平成11年10月21日に東京農工大学50年史を出版致しました。主たる記念事業は「記念会館建設の援助」と「国際交流の援助」ですから、この事業計画について理事会でいろいろと検討致しました。募金合計額として46,479,057円の収入がありましたが、この中から50年史の出版事業に2,799,349円を支出しましたので、差し引き43,679,708円の預金残高があります。本理事会はこの募金残高の用途について慎重に審議した結果、次のように決定しました。1) 記念会館の建設費として4,000万円、2) 記念会館の設計費として210万円、3) 国際交流援助費として80万円を計上し、これらの合計金額4,290万円は奨学寄付金として大学に寄付する。残った予算のうち、1) 50万円は報告書・礼状の印刷と発送費に、2) 10万円は宛名の印刷などに必要なアルバイト料に配分し、3) 179,708円を予備費として、大学の総務部庶務課が管理する。大学が上記の予算配分に従って記念事業を行うように梶井(前)学長に報告し、平成13年4月24日に開催された大学

の部局長評議議会にも報告しました。

同窓会が大学から募金活動の依頼を受けた当時、日本の経済状態は極めて悪い状態にありましたから、企業からの寄付金などは期待できない状況にありました。それゆえ、同窓会が中心になって募金活動を行うことには様々な困難が予想されたので、同窓会の募金活動への協力については慎重論が多く、容易に賛成できる状況ではありませんでした。当初「同窓会館建設のための募金活動」ということで同窓生の皆様に50周年募金会へのご寄付をお願いしたのですが、その後の大学当局との折衝を通して知らされたことは「国立大学の敷地内には同窓会のような私的な建物を建てることはできない」ということでした。ただし、国有財産としての国立大学の施設を建設することは認めるから、そのためには建設基金を奨学寄付金として寄付するようにとのことでした。大学からの説明では平成15年には東京農工大学も独立行政法人に移行することでしょうから、その時には国立大学という規制枠が緩和され、同窓会館の建設が可能になるかもしれないということでした。本募金会としてはできるだけ早い時期に大学が上記の事業計画に従って50周年記念会館を完成し、続いて同窓会からの寄付金による3,000万円規模の同窓会館が建設されることを念願しております。

今後、同窓生に対してご寄付をお願いする機会が増えることと思いますが、この教訓をいかして慎重に行動する必要があると思います。

## 同 窓 生 だ よ り

### 追悼 諸星静次郎先生

農学部教授 黄色 俊 一 (養蚕 S40)



日本学士院  
会員・東京農  
工大学名誉教  
授 諸星静次  
郎先生は、去  
る平成13年1  
月5日、肺炎  
のため逝去さ  
れました。先  
生は大正3年  
のお生まれ  
で、86歳の生  
涯でした。

諸星先生は  
神奈川県・秦野のご出身で、吉田島農林学校から  
東京高等蚕糸学校養蚕学科へ進学され、さらに九  
州帝国大学を卒業されました。昭和14年から昭和  
38年まで郡是製糸株式会社で蚕桑研究所長、蚕種  
事業部長などを務められ、昭和38年の秋に母校東  
京農工大学農学部教授として赴任されました。本  
学では、昭和40年評議員、昭和43年から5期にわ  
たり農学部長を務められ、その間学長事務取扱も  
されました。昭和52年定年退官後は名誉教授に、  
昭和53年には東京農工大学農水産系連合大学院創  
設準備室長に就かれ、連合農学研究科の設置に多  
大な貢献をされました。昭和54年からは2期6年  
間東京農工大学長に就任され、東京農工大学の発  
展に尽力されました。学外では、日本学術会議会  
員として3期9年間、科学技術行政において重要  
な役割を果たされ、また、日本蚕糸学会長、大日  
本蚕糸会評議員、農業資材審議会委員として蚕糸  
科学と技術の発展に貢献されたほか、江戸川大学  
長、学術審議会専門委員、科学技術会議専門委員、  
日本学術振興会評議員、国立遺伝学研究所評議員

など数多くの要職も歴任されました。

カイコの生理遺伝学を中心とした諸星先生の研  
究は有名で、デュアル思考の発育拮抗説と発育平  
衡説を機軸とした数多くの論文が評価され、蚕糸  
学賞、日本農学賞、読売農学賞、蚕糸科学功績賞、  
紫綬褒章、日本学士院賞、恩賜賞(大日本蚕糸会)  
などを受けられました。日本遺伝学会、日本蚕糸  
学会および日本環境調節学会では名誉会員に推挙  
され、昭和55年には昭和天皇に、平成9年には今  
上天皇にご進講もなさいました。

このように諸星先生の功績・業績はまさに多大  
であり、諸星先生はまさに偉大な先生でした。に  
もかかわらず先生は、知る人ぞ知る庶民の人格者  
でいらっしやいました、学生にも若い教官にも人  
気がありました。「そけえらで…」「はんぶんぐら  
い…」などの飾らない言い回しと、「大学はいいな  
あ。自分の好きな研究をして給料がもらえるんだ  
から」などといったプラス思考、他人を信じるこ  
とによって連綿と続く人間関係、先生の周囲には  
いつもいろいろな階層の人々が混在し、そして、  
先生は何よりもカイコの研究を日々楽しんでいら  
っしやいました。なにしろ郡是時代に連日誘い誘  
われていた(ご令室談)麻雀をお止めになっての  
カイコの実験でしたから。その諸星先生に次々と  
実験をけしかけられた弟子どもは、いつの間にか  
学校が好きになって、生涯を学校で過ごすよう  
になった輩が多いようです。晩年、弟子にとっては  
父親以上の関係で、「信号を見て横断歩道を渡るん  
ですよ」などと気にはいたのですが、ことの  
発端が学校の帰りに転んで入院されるという思い  
もよらないことで残念です。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(先生の写真は勲2等旭日重光章受賞時、S61.  
4.29)

## 飯野善治先生を偲ぶ

名誉教授 大和田悦郎

平成13年3月12日森本先生(応用分子化学科・教授)からの電話で、飯野善治先生が亡くなれたことを知らされました。その時、私は心のどこかに穴がぼっかり開いたような気がしました。

私は、農工大が新制大学として歩み始めた昭和28年に、繊維学部繊維化学科に着任しました。それ以降、飯野先生が同51年に定年退官される迄、20年以上職場で一緒に過ごさせて頂きました。着任当時は、研究、教育の条件が厳しく、新制大学卒業生の就職も困難な状況でした。就職担当教官ばかりでなく、他の教官も関連企業を訪問し、学生の就職活動を支援しました。このような時に飯野先生は、率先して会社との交渉に当たられました。

飯野先生は、学生寮の舎監を務められた御経験もあり、学生の立場や気持ちを十二分に理解し、尊重しておられました。繊維学部が工学部に、繊維化学科が工業化学科に発展改組されても、飯野先生の学生に対する愛情は変わりませんでした。我々は、学生に関する問題全般について飯野先生に相談し、貴重な助言や解決策を御教示を頂きま

した。しかし、飯野先生御自身のお考えを話されるのは稀でした。ところが、ある時『和が一番大切ですよ』と述べられました。『和』とは、人々の心が和らいで協力する謂であり、これこそ飯野先生の基本にあるお考えであると思い当たりました。

飯野先生は、学生部長として新寮建設時には学内外の様々な懸案を処理されました。また、大学の根幹を揺るがした大学紛争時には学生間の対立などの問題に直面されました。私などの想像が及ばない御苦勞、御心痛により、一時期健康を損なわれたこともありました。しかし、最終的には、『和』の精神によってどのような難問も解決されました。

人生の先輩としてはばかりでなく、飯野先生の比類のない包容力は、私の心の支えとさせて頂きました。先生のご逝去により生じた心の空洞は、私なりの『和』の精神によってうめていく覚悟です。

謹んで先生の御冥福をお祈りいたします。

## 部 会 ・ 支 部 だ よ り

### ◎ 獣医学部総会 ◎

日時：平成12年11月11日(土) 13:30-14:30

場所：農学部新4号館3階4-32号教室

1. 本多事務局長の開会の辞に続き、小川会長から挨拶があり、冒頭に昨年総会以降亡くなった会員の方々の冥福を祈って黙禱が行われた。また、議事に先立ち、議長として慣例により会長が選出された後、議事録署名人として立石洋見氏(S31)と神田尚俊氏(S45)が、書記として谷口隆秀氏(S57)と林谷秀樹氏(S58)が選出された。

#### 2. 議事

##### 1) 平成11年度 事業報告並びに収支決算について

事務局の手違いにより配布資料の差し替えがあった後、本多事務局長から平成11年度の事業報告並びに収支決算(案)について説明があった。その後、立石会計監事から会計監査報告があり、質疑応答の後、事業報告並びに収支決算(案)は原案通り承認された。

なお、獣医学部会と親同窓会の連絡委員には渡辺元氏(S54)が、平成13年度に作成される同窓会の名簿編集委員には谷口隆秀氏がなったことが報告された。ま

た、会員の慶弔として、平成11年度に大野乾氏(S24)ほか14名が亡くなったこと、また、平成11年度畜産大賞を佐藤静夫氏(S23)が受賞したことなどが報告された。

##### 2) 平成12年度 事業計画並びに収支予算について

本多事務局長から平成12年度の事業計画並びに収支予算(案)について説明があり、質疑応答の後、原案通り承認された

##### 3) 平成12年度 研究・講演会について

本多事務局長から配布資料の訂正がなされた後、総会後に開催される平成12年度の研究・講演会(「動物のちょっといい話」)について説明があった。

##### 4) 次年度の総会、研究・講演会の開催日について

本多事務局長から次年度の総会ならびに研究・講演会の開催時期や内容について、平成11、12年度は変則的な開催だったので、次年度はこのままでよいかどうかについて語られた。会員からは次年度は元のように総会を春に戻したほうがよいといった意見や研究・講演会は毎年でなく数年に1回にし、その代り盛大に行ったほうがよいなどの意見がだされたが、どのようにするかについては次回の常任幹事会で検討することと

した。

#### 5) その他

事務局から会員からの会費の納入を促進するため、

1. 各クラスの幹事を通して会員に周知する
2. 部会便りを送付する封筒に会員がいつまで会費を納入したかを記載する
3. 会員に E-mail アドレスを連絡してもらい、メールを使って会員に会費督促を行うなどの方策が検討されており、すでに 3. については実施していることが報告された。



### ◎新潟県支部総会◎

平成12年度新潟県支部総会は、5月19日(金)新潟市内のクオリスビルにおいて30名の参加をもって開催されました。

布施支部長のあいさつの後、予算・決算、新役員体制の承認がなされました。また、本年度は新たな行事として、現役学生が毎年夏休み期間中に本県で農家体験をしているので、そこへ激励に訪問することが提案されました。

懇親会は、世代を越え母校での思い出や旧友のことなどに話を咲かせ、大いに盛り上がりました。総会もあつという間に終わりの時間となり、みんなまだなごり惜しうに、来年の再会を誓いながら散会しました。



村山康則(農H3)記

### ◎徳島県支部総会◎

平成12年度徳島県支部総会はようやく涼しくなってきた10月21日にホテルクレメントで開催されました。

出席人数は、8名(林学科6名、電子学科1名、数理情報工学科1名)で奇しくも生産が超長期の産業と現在の最先端の産業に従事しているメンバーが集まりました。

岡田幸助会長(林S28)の挨拶と乗藤氏(電子H1)の乾杯に始まり、森下氏(林S17元厚生大臣)から本学のモットーが人材を育てて地方に帰すということや政界の秘話などを伺いながら楽しい時を過ごしました。

最後に会長から、来年も七夕のごとく、年1回の再会を約束して散会となりました。



井上雅仁(林S53)記

### ◎愛媛県支部総会◎

平成12年度愛媛県支部総会を11月26日(日)松山市道後に於いて開催。

愛媛県支部では、支部長等の不在(死亡)などにより総会が途切れておりましたが、橋本鶴喜氏(織維S19)、重松正矩氏(製糸S32)両氏の熱い思いや役員の協力により会員23名の参加のもとでの開催でした。

出席者の卒年は、S10年農実の宮本松次郎大先輩からH6物質生物工学の小沼伸八氏(帝人勤務)と老若幅広い集りで、大安の日に当たり結婚式と重なり出席出来ない人が多かったもののみずみずの総会となりました。

総会は、橋本鶴喜氏(前出)の挨拶、議題として①今後の支部運営②支部会則の改正③役員改選などが提案され、いずれも事務局原案のとおり決定。新しく選任された重松正矩支部長(前出)が新任挨拶にあわせ同窓会本部や代議員会の活動状況の報告を行い、一部会を閉じました。

このあとの懇親会では、大先輩宮本松次郎(前出)が卒業後朝鮮へ就職してから終戦までの活躍の跡を述べられ乾杯。杯を重ねた中で自己紹介・情報交換・懇談…などなど。

副支部長に就任の門屋一臣氏(農S33・愛媛大学農学部教授)の退官後の自営農業への抱負と愛媛支部によせる気持ちの披露など弁士が続々と登場。過去・現在・未来と話題雑多ながら盛会であった。

時間切れとなり、次の総会と再会に期待を寄せて閉会となりました。

二宮克敬(織別S33)記

### ◎大阪支部理事会◎

平成12年11月10日夕、本部理事生原喜久雄教授にご出席をいただき、平成12年大阪支部理事会を開催した。奥野支部長の挨拶につづいて生原教授から母校と本部の近況等についてお聞きした。人事案件3件及び次回

支部総会の開催計画(平成13年10月中～11月初)等を承認する議事を終了後、生原教授、奥野支部長を囲む懇親会を行い解散した。



岡本徹哉(織化34)記

### ◎大分県支部総会◎

2000年8月19日大分県別府市で大分県支部(漆間友喜支部長:養蚕S34)の総会が開催され、21名の同窓生が集まりました。

同窓会本部から濱野教授にご出席頂き、東京農工大学の近況等を伺いました。また大分県支部で恒例の同窓生による「近況報告会」では、守水信幸(植防S61)から『自治体労働者の組合運動からの接点』というテーマで、今の職を通して考えていることを報告しました。

この報告会は4年目。今後も参加者の興味を引く報告会を企画して参ります。多くの同窓生の参加をお願いします。



守水信幸(植防S61)記

### ◎富山県支部総会◎

平成12年度の富山県支部総会は、2月17日(土)に、富山市の「とやま自遊館」にて、会員18名の参加に加え、本部から工学部亀山秀雄先生をお招きして開催されました。

総会では、加茂正三支部長のあいさつ、11年度会計報告等が行われ、亀山先生から大学の近況をお話しいただきました。

懇親会は、斉藤利雄先輩の乾杯に始まり、恒例の出席会員の近況報告を兼ねた自己紹介では、今年一年間の自慢話や、第2第3の人生を楽しんでいる様子などに盛り上がり、それぞれに楽しいひとときを過ごしました。

最後に、岡正先輩の万歳で、農工大と会の発展を祈念し、再会を約し散会となりました。



石黒哲也(植防S56)記

### ◎鳥取支部総会◎

平成13年度鳥取支部総会は、平成13年2月18日(日)鳥取県三朝温泉の鶏泉閣において開催されました。

この日は暦の上で雨水に当たり、暖冬の予想に反して昨日まで厳しい寒さの続く毎日でしたが暖かい南の風の吹く一日でした。

前年度は、2月11日(建国記念の日)に開催し若手グループから『連休は避けてくれ』の要求に応じて1週間遅らせて計画したのですが、出席者は予想に反して少なく、会長以下8名の参加で開催しました。

出席者は全て公務員とそのOBで占められて、毎回必ず出席する馴染みの顔触れで、西尾会長の本部報告と恒例になっている会員のユーモアを交えての近況報告など楽しく和やかな一時を過ごしました。残念なことには前年は谷口氏、今年は田部氏と現役で働き盛りの会員が早世したことです。謹んで両氏のご冥福をお祈りし、次回の対策について検討し会を終りました。



小林 寿(製糸S24)記

### ◎静岡県支部総会◎

平成13年度静岡県支部総会は、去る2月24日(土)静岡市内で、同窓会本部より工学部機械システム工学科教授澤田孚夫先生をお迎えして開催致しました。当日は、年一度の再会を楽しみに各界で活躍中の諸兄37名の出席を得ました。

総会は、戸塚支部会長(農S16)の挨拶ならびに平成12年度の活動報告、収支決算並びに平成13年度の支部活動計画が原案通りに承認されました。続いて、支部会員の浅沼肇さんによる「環境保護と製品開発につい

て」という演題で講演会を行いました。リサイクル法施行に伴う製造業界のご苦勞等についてご講演いただき、活発な質疑応答もあって大変好評でした。

総会後の懇親会では行きぬ話で大いに盛り上がり、次年度での再会を約束し、盛会のうちに幕を閉じました。



丸山 淳 (林H2) 記

### ◎岩手県支部総会◎

去る2月3日、JR盛岡駅隣の「ホテルメトロポリタン盛岡」で岩手県支部の集いを開催。2年ぶりの集いに150名中28名が参加。集いの開催準備に当たった藤原哲雄氏(農S60)は、奥さんのゆみさん(農S59旧姓田多井)、二人の子供さんともどもの参加で花を添えた。

記念撮影の後、長岡支部長(獣S35)が挨拶に引き続き事務局の交代を提案。

事務局は比較的異動の少ない職場の者。負担軽減のため交代制という内々の申し合わせに基づき、県農業研究センター畜産研究所(農学)から県林業技術センター(林学)に移すこととし、それに伴う県支部の新体制が承認された。

来賓の板橋久雄教授(農S39)の挨拶とビデオ「人と地球のハーモニー」で母校の活躍、発展をみんなで喜んだ後、堀田成雄新支部長(林S31)のもとで懇親会に移行。1分間スピーチで全員が大学の思い出や近況を報告。3時間余に及んだ集いは、おおむね2年後の再会を約して散会した。



長岡文夫 (獣S35) 記

## ク ラ ス 会 だ よ り

### ◎多摩留会 (獣S31クラス会) ◎

平成8年9月に四国(松山)で卒後40周年のクラス会を開いてから暫く休んでいた会を、平成12年9月2日(土)～3日(日)に伊豆・網代の南熱海バストラル「松風苑」にて開催し、会員26名(会友2名を含む)のうち13名が参加した。

現地集合で、2日午後5時までには顔を揃え、温泉で汗を流した後、6時から宴会に入る。司会は小嶋が務め、先ず今年5月29日に逝去した飯島義章君のご冥福を祈って黙禱を捧げる。余りアルコールの回らないうちに記念撮影を済ます。田附寿一君の音頭で再会を祝し乾杯をした後、各自から近況報告。殆んどが定年退職しているが、悠々自適は少なく何らかの仕事をしていて、まだまだ皆頑張っているなど感じた。

宴が進むにつれ、大分ご機嫌になって学生時代を思い出しての話や、仕事の話に花が咲き、大いに賑った。約2時間半の宴の終りが近づき、今回は平方明男君の当番で2年後に長野で開催することを決め、葉山貞夫君の三本締めでお開きとなる。その後は部屋で更に語りあったり、久しぶりの囲碁の対局をする者で夜の更けるのを忘れ過ぎた。

翌日は、朝食後玄関で写真を撮り、これから中国に

出掛ける平方君を送り出す。残った連中は暫くロビーで語り、10時頃散会。長野での再会を約して、それぞれ帰途についた。

[出席者] 池田勝彦, 泉川大海, 岩槻和男, 小嶋健司, 小林茂雄, 下田貫三, 関水 隆, 田附寿一, 野島重吉, 馬場克之, 葉山貞夫, 平方明男, 吉田和雄



小嶋健司 記

### ◎昭和18年養蚕実科卒クラス会 木の実会◎

昭和18年卒をもじって木の実会と命名し平成6年以降は毎年開催してきました。本年は群馬の生方君の世

話で山梨県石和温泉ホテル八田で平成12年10月11日開会したところ同伴1人を加え9名が集まりました。

同期生40名中生存者は18名ですが殆どが喜寿を迎えており、また今回の出席者全員が戦争経験者であり悲喜こもごもの終戦秘話に花が咲きましたが、老兵は死なず消えもせずの気概があふれ交友を深めました。これからも一旦、とぎれると一巻の終りになってしまうから毎年やろうと言うことで一致し、次回は岐阜の加納君に世話方を引きうけてもらい、友あり遠方より来る豈楽しからずやを待つことにしました。



鈴木正敏 記

### ◎埼玉県職員林学関係同窓会◎

毎年恒例の林学科関係卒業生の同窓会は、平成12年10月21日(土)に川越市の「登茂恵」で行われた。今年の出席者は、15人(現役11人, OB 4人)で最年長の野村静男さん(林S20)による乾杯の音頭で始まった。各自の近況報告では、仕事、趣味、資格取得、健康などの報告があった。

ここ数年、農工大出身の新規採用職員がいないことや若い職員の出席が少ないことから、OBの方からも明年こそはぜひ若い人との交流を!との話で来年の再会を約しながら、閉会となった。



田畑琢巳(林S62) 記

### ◎糸交会(糸S31)◎

われらが糸交会は平成10年から出席簿順の幹事となっている。今年の番に当たった関係で、糸連の富岡君とコンビを組んで、地元横浜で去る10月28日に開催し17名が参加した。第1部としてランドマークタワー69階からの展望をたのしみ、帆船日本丸、帝蚕倉庫、シルク博物館を見学、中華街でのショッピング。第2部は華正楼本館に移って旧交を温め、母校同窓会事務局

で活躍中の瀬木君の母校近況報告と締めくくりで、楽しい一日の行事を終えた。そして来年からは出来る限り、幹事の故郷めぐりを企画することを申し合わせた。さしずめ来年は諏訪・岡谷の予定。そして長崎・高知での開催もそう遠くない、と楽しみだ。



木村明彦 記

### ◎最終のクラス会◎

昭和11年府中第1回農学科卒業生(42名)が、卒業式後渋谷の料亭での分散会で結成・命名した壺々会は終戦後活性化し、毎年一泊二日のクラス会(総会)を開いてきた。

現会員13名。クラス会出席者はこの数年10名程度を維持してきたが、昨年は5名に急減。

10月17・18日伊豆長岡温泉「はなぶさ」旅館で開催した平成12年総会(クラス会)出席者はわづか3名になってしまった。

欠席者10名へは寄せ書を郵送し、協議の結果

1. 組織は解散する(クラス会がこれが最後)
2. 由緒ある会名「壺々会」は残す。
3. 連絡係を置く。 と決めた。

(-)壺々会は64年継続したこと

(-)50年記念誌(昭61年B5版571頁)

60年記念誌(平8年B5版169頁)

発行し母校へも贈った。これらのことはクラス会として自慢してよいと考える。



安生暢二 記

### ◎昭和25年製糸学科卒クラス会◎

光陰矢の如し、我々が小金井の学窓を離れてより既に半世紀、今年は50周年目の記念すべき年に当るが、我がクラス会も平成に入ってから7回と回を重ね、10年以降は毎年行っているが、今年は卒後50周年の節

目と2000年代第1回目のクラス会として、H12年11月6・7日16名の出席者が、当クラス会としては初めての東北の地鶴岡湯の浜温泉(山形県)に参集し、好天に恵まれた日本海に沈む夕日の神秘的な絶景を眺め乍ら夕刻6時10分記念写真をとり開宴前にクラスメート35名中既に死亡された7名の物故者の冥福を祈り黙禱を捧げ、来年度の当番幹事に八下田邦夫君(愛知)を選出し開宴となった。飲む程に話はずみ、互の近況を報告し合い、当番幹事野沢の地酒と地元の民謡「最上川船唄」「庄内おぼこ」の披露に宴席も盛り上がり、深夜迄旧交を温め楽しい一夜を過ごす事が出来ました。

翌日は幸に又好天に恵まれ秋たけなわのみちのく路、出羽三山(月山、湯殿山、羽黒山)の合祭殿、羽黒山神社を参拝の後、鶴岡市の致道博物館を見学し駅前滝水亭で昼食をとり、来年の再会を誓い乍ら解散し別れを惜しんだ。



野沢久治 記

### ◎声高らかに寮歌をうたおう 静岡寮歌祭◎

旧制高等学校を懐かしむ第28回静岡寮歌祭が、平成12年11月25日(土)静岡駅前ブケ東海で開かれました。全国の旧制高等学校、大学予科等35校の総員350名の各卒業生が全寮制度時代の良き青春時代を振り返り、校章の入った破れ帽子をかぶり、腰に手拭をぶらさげ、マントをひっかけ、当時の学生姿で登場した。

校旗を高々と翻し、太鼓に合わせて、威風堂々と寮歌を歌い出すと、会場から一斉に拍手が送られた。

我が東京高等蚕糸学校は第9回目の出場であり、静岡同窓の御理解もあり、農学部と共に戸塚会長を先頭に出場致しました。青春よ、いま一度とばかり、校旗を翻し、声高らかに西が原寮歌を歌い出すと、会場より拍手が沸き上がりました、充実した一日でした。

昨年は校章入りの三校連名の、のぼり旗が立派に出



来、本年も同窓の皆様の暖かい寄付により校章入りの三校の小型手ふり旗が立派に出来ました。これで全ての道具が揃いました。同窓会の皆様、静岡の寮歌祭に出場してみませんか。陣羽織、鉢巻きはお貸しいたします。

山田 隆(織化S22)記

### ◎昭和17年9月卒クラス会◎

我々は1940年(昭和15年)4月、獣医学科に入学、しかし日米開戦により予想もしなかった、昭和17年9月30日卒業という、学制はじまって以来の6カ月短縮授業となった。

したがって在学後半は、あわただしい学生生活で競争一色、いづれは戦場一戦死かという思いがあった。学友の大部分は17年9月30日卒業と同時に、それぞれの部隊に入営(軍隊生活)となった。

戦後、多少着ていた昭和27年にクラス会を東京で、以後毎年各地で会を開催した。2001年にはクラスの諸君も80歳近くになり、同時に新世紀のスタートの年となるので、平成12年10月17~18日、熱海のホテルに全国から14名が参集した。当日は卒業以来はじめての顔合せもあり、とまどう光景もみられたが、談笑のうちに入学以来、過ぎさった60年前の青春の思出はつきず、一夜を過ごした。翌日は互いに健康長寿を祈念し名残を惜みつつ散会した。



持永泰輔 記

### ◎ポプラ会(昭30年獣医学科卒クラス会)◎

平成12年(2000年)の会は中国でやろうということ、私が中国の青島と大連で冷凍食品の合弁会社をやっていることもあり、多少中国に対する知識があるというので幹事役を引き受け準備を進め、10月16日から7泊で北京、西安、桂林、上海と回ってきた。ポプラ会は夫人同伴が基本で、今回も参加者の内訳は、会員が11名で夫人同伴が7組あって計18名の賑やかな旅となり、大変楽しい8日間だった。8日の日数があるので何かテーマを持たないと旅の意味がボケてしまうと思い、仕事柄食べ物にこだわってみた。あれだけの大きさと歴史のある国だけに、食品の素材、調理法、形状、地域性など考えたらきりがないので、手の込んだ宮廷料理、地方性の強いローカル料理、現代の海鮮料理と並べてみた結果、宮廷料理の満漢全席、西安と桂林の地方色豊かな料理と、上海の和平賓館の上海カニ

などの海鮮料理となった次第。毎食、殆どの皿が8割方無くなっているのを見ると、かなり好奇心が強く健康啖家であるように思われた。いずれにせよ、皆さん全員無事に旅を終えられ、賑やかに帰国した。上海の打ち上げ会で、次の幹事が石坂君に決まった。



金井 惇 記

### ◎「樹木医」制度と同窓生の活躍◎

樹木医制度は、当初、平成3年度に林野庁が「ふるさとの樹保全対策事業」を予算化した際、事業の一環として制度化されました。10年が経過した今日、第一次試験(学歴に関係なく、経験年数7年以上が受験条件で理科全般の知識を問う)の受験者は約600名、このなかから上位80名が筑波で宿泊、2週間、10数教科の講義と実習、各教科の試験、さらに面接試験後、最終合格者が決定する仕組みになっています。制度の運営は(財)日本緑化センターが行っています。

なお、似た名前で「樹医」という言葉がありますが、これらとは全く関係ありません。「樹木医」は「樹医」とは異なり、商標登録をとっている名称なので、資格者以外は使用できません。10年間で780名が資格を得て全都道府県及び台湾をはじめ、近年はタイ国でも活躍しています。

認定者の全員が樹木医会を組織しています。資格者はバラエティーに富んでいて、元国会議員、現・元の国公立大教授、高校教師、国・県・市町村等の研究機関及び行政担当の現・元職員、造園関係会社の経営者及び社員、元NHKキャスターなど多士多彩で、学位や技術士取得者もかなりの数にのぼります。資格者全体の60%は現在造園分野で仕事をしている方です。

今では、ふるさとの樹は勿論、社寺、工場、学校から家庭の樹まで守備範囲が広がっています。従来の単木を対象とした治療専門から、今後は集団のなかで生きる樹も対象としていく必要にせまられています。現に国有林内で選ばれた「森の巨人たち」100選の樹木も視野に入れていく所存です。さらに、街路樹をはじめ公園の樹木などの倒木危険性の判定など予防医学的対応にも目を向ける必要性に迫られています。

農工大では林学のほか環境保護、農学、植物防疫、蚕糸などの卒業生が認定を受けて各地で頑張っています。

卒業生で関心がある方がおられましたら、私ども

の仲間に是非加わっていただければ幸いです。

日本樹木医会会長 近藤秀明(林S28) 記

## 掲 示 板

### ▶平成13年度版会員名簿発行について

同窓会事業部長・名簿編集委員長 頼瀬明伯

平成13年度版会員名簿は、本年11月に発行の予定で現在準備中です。

会員数も過去最大の規模となり、学科数も増加しており、会員各位の活躍分野も年毎に拡大してきております。

名簿発行にあたり、各部会にわたる名簿編集委員会を設置し、従来の名簿編集の経験を効果的に生かし、また、新たな仕組みを取り入れながら、使い勝手がよく、部会、支部の同窓会活動に有効で、一層正確な名簿編集を目指してゆくように取り組んでおります。

この名簿のなかには多くの情報が詰められておりますので、会員各位の個人情報につきましては慎重な取り扱いをするように留意しております。

今回は、前回に比し、約4千名の会員が増加する見込みであり、ページ数もかなり増大する予定です。

同窓会活動は、こうして規模的にも拡大発展の基調にあります。取り巻く一般経済情勢はかつてない厳しい状況にあります。

こうしたことから、制作費用の圧縮も計らなければなりません。別途ご依頼いたしましたけれども、会員自営会社、会員在籍会社、一般会社による企業広告掲載に対するご協賛・ご協力を頂くよう計画いたしました。

これらにより、名簿自身が情報源としての質的向上が計れるよう期待しております。

広告掲載については、名簿印刷先 明誠企画(株)に委嘱しました。

### お知らせ

#### \*名簿発送対象の会員

- (1)終身会員(終身会費30千円を納入の会員)
- (2)10年前前納会員
- (3)年会費(年額1,500円)として、平成10年度(例平成10年4月~11年3月)以降、少なくとも3ヵ年度分合計4.5千円を納入頂いた会員

#### \*新住所等、異動票について

すでに、「農工通信」第66号(p.17)でお知らせし、

お願いしましたように、印刷日程の関係上、勝手ながら、去る5月31日に締めさせていただきます。ご了承の程を。

#### ▶(財)東京農工大学後援会の活動

平成12年度当後援会第2回役員会・評議員会は3月24日、来賓として、東京農工大学梶井学長、副学長他を招き、大学本部会議室において開催されました。会議においては、平成13年度予算案を中心として審議、関連討議が行われ原案通り可決されました。

平成13年度(平成13年4月～14年3月)収支予算規模については、経済環境悪化の影響を受けて、例年に比較して低水準となっております。大学に対する教育援助額も7.5百万円と平成9年当時の水準とせざるを得ない状況となっております。

会議では、事業額と事業内容、大学と後援会との連携等の総括的課題、後援会が「特定公益増進法人」として認定されていることから個人の寄附行為に対する免税措置、学生に対する研究支援等具体的な個別課題について、収支改善策を含め論議が行われました。

後援会活動は当財団の基金によって運営されております。この基金の源泉は卒業生、大学関係者、入学生、在学生等の父母等による賛助会費と基金からの利息収入が主なものです。しかし、金融情勢は悪化の状態が続いている状況であり、基金の充実をはかるためにも皆様方からのご協賛、ご協力をお願いいたしたく存じます。

平成13年度第1回役員・評議員会は去る5月26日、大学本部会議室において開催され、主として平成12年度決算報告、審議が行われ了承されました。

今年度は、会長以下役員(理事17名、監事2名)、評議員(22名)全員の改選が行われております(会長は阪上信次元学長、再任)。また、前回の討議に引き続き、13年度以降将来にむけての業容維持拡大のための方策について討議されました。前回会議時(3月)に比し、賛助会費に若干の改善が見られましたが、改めて準会員父兄各位への加入依頼等、賛助会員の拡大、教育援助の対象の特化、学生に対する教育的援助などについて改めて論議され、有効な活用を計っていくものとされました。

(財)東京農工大学後援会へのお問い合わせやご連絡は、事務局 TEL042-364-3328 FAX042-335-3500へお願いいたします。

#### ▶同窓会・(財)後援会ホームページ開設さる

同窓会企画部長 亀山秀雄

同窓会および(財)後援会のホームページは、計画より遅れておりましたが、5月末に開設され、トライアル発信を始めました。

アクセスは、<http://www.tuat.ac.jp/~dousou/>です。

すでに農工通信66号でもお知らせしましたように、ホームページでは、会員の皆様には有益な新しい情報を提供するものですが、掲載項目については逐次その範囲を拡大して行くつもりです。

現状では、まだ十分とはいえませんが、同窓会および(財)後援会それぞれの組織体制などの基本的な情報を掲載してあります。今後、さらに内容の整理、充実を図って行く計画です。

皆様からのご意見や情報をお寄せください。

ホームページのなかの同窓会宛「メッセージの作成画面」をご利用ください。

#### ▶農工大ティー・エル・オー株式会社設立動向 工学部教授 亀山秀雄(化工S48)

農工大 TLO(株)がよいよ11月1日に設立する運びになりました。出資額は6月20日現在で440名5,475万円です。出資者比率は、OBが7割、大学関係者が3割です。7月5日の締め切りまでには6,500万円を超えるものと予想されます。

国立大学の独立法人化に向けて、大学の知的財産を社会に還元し、社会貢献とともに大学独自の財政基盤を確立する仕掛けに対して、OBの強力な支援が感じられます。

会長は、梶井功前学長、社長には、新進気鋭の34歳の伊藤伸氏(慶応大学経済卒、元日経新聞記者、筑波大でMBA取得予定)が就任する予定です。それをOBがサポートする形で女性副社長として人脈豊かな前田裕子氏(40歳、昭和59年卒)、取締役役に営業のベテランとして益子堯氏(57歳、昭和42年卒)、研究担当として川口竜二氏(49歳、平成7年博士号取得)がそれぞれ非常勤役員として就任する予定です。学内からは、非常勤取締役として各部署から計4名が就任します。今後のスケジュールは、発起人会7月10日、株式申込証の発送7月24日、創立総会10月20日、設立登記申請11月1日の予定です。

## ▼ 平成13年6月1日現在同窓会会員数

区分	現在会員数	うち今年卒業者
農学・生物生産学部会	2,890名	63名
蚕糸生物学部会	2,233	—
植物防疫学部会	1,105	35
農芸化学学部会	1,850	52
林産・生物資源工学部会	1,250	46
環境科学部会	1,220	28
林学部会	1,910	—
生産環境工学部会	1,242	—
地域生態システム学科会	255	91
獣医学部会	1,969	38
(農学関係部会)	15,924名	353名
製糸・高分子・生命工学部会	2,600名	95名
機能材料工学部会	1,881	50
化学工学部会	1,506	45
応用分子化学部会	2,799	53
機械システム工学部会	3,776	164
電気工学部会	1,795	71
電子工学部会	1,376	59
応用物理学部会	1,246	69
情報工学部会	1,065	76
(工学関係部会)	18,153名	682名
(正会員合計)	34,077名	1,035名
特別会	* 216名	* は昨年度
準会	5,932	
費助会	2,276	
名譽顧問	4	
顧問	8	
(会員合計)	—	—

註 大学院連合農学研究科, 大学院博士後期課程, 大学院生物システム応用科学研究科修了者は, 含まれておりません。

## 慶 弔

## 慶 事 (ご連絡いただいた方々)

## 平成12年 大気環境学会賞

河野 吉久 (植防院S49)

## 平成12年 秋の叙勲

紀本信二郎 (林S29) 勲五等瑞宝章

## 平成13年 春の叙勲

藤沢 偉作 (名誉教授) 勲三等瑞宝章

田中 昭三 (林S23) 勲四等瑞宝章

## 弔 事 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

渡邊正昭 (機械S41) 前常務理事

12.12.5 逝去

諸星静次郎 (蚕S10) 元学長, 名誉顧問

13.1.5 //

大橋 宏 (農S12) 前栃木県支部長

13.1.11 //

金井芳朗 (農S11) 前愛知県支部長

13.2.22 //

飯野善治 (蚕S11) 名誉教授, 元総務局長

13.3.11 //

## 今春本学を退官された教官

白井 邦郎 教授農学部 甲田 精宏 助教授工学部

菅野 茂 教授農学部 高橋 道子 助教授工学部  
伏谷 賢美 // 松井 満 講師工学部  
秋山 雅安 教授工学部 武永 順次 助手農学部  
仁田 周一 // 土居 三郎 助手工学部  
横手 一郎 // 野口 晴彦 助手農学部

## 事務局だより

## ▼ 会費振込用紙が変わりました

今回より手数料は, 同窓会が負担する赤色の振込用紙となりました。今までの青色の振込用紙も使用できますが, 手数料は個人負担となります。

## ▼ 同窓会事務局, 夏期休業のお知らせ

今年の夏期休業は, 8月11日から8月19日までとさせていただきます。ご案内申し上げます。

## 編集後記

農工通信67号をお届けいたします。本号では, お知らせしなければならない記事が多数あり, 「学園便り」などは割愛せざるを得ませんでした。多少, 堅苦しいできあがりとはなっていました。

諸星先生, 飯野先生の訃報に接しました。去る4月のある日の暖かな昼下がり, 工学部西門の近くで60半ばと思われるご夫婦に会いました。同窓生とのこと。「この辺りに諸星先生の官舎がありましたね。そう, 寮生だったんです。飯野先生が舎監でおられてお世話になりましたね。学科は違ったんですが。」母校のよい一面を見た一時でした。

編集の都合上, 本年1月以降に到着したクラス会だよりは, 次号に掲載とせざるを得ませんでした。どちらさまも, 事情ご賢察の上, お許し願います。

(長谷川 禎告 記)

## 農工通信 第67号

平成13年(2001年)7月1日

発行所 東京農工大学同窓会

連絡先 〒183-8509東京都府中市幸町3-5-8

東京農工大学同窓会事務局

<TEL 042 (364) 3328>

<FAX 042 (335) 3500>

e-mail: dosokai@cc.tuat.ac.jp

URL: http://www.tuat.ac.jp/~dousou/